

祥しょう雲うん閣かく

たより vol.49



文化に気軽に触れていただくため、お雛様や五月人形、季節の茶道具などの展示をしています。土曜日の煎茶提供に合わせて、清泉幽茗流清泉会による文人華道の席飾りをご覧ください。

祥雲閣では、四季折々の庭園を眺めながら、様々な道具や飾りをご覧くださいと共にご茶とお菓子を味わっていただければと思います。

また、茶道をはじめ日本の伝統

祥雲閣自主事業

はじめての水引細工



6月24日(土)祥雲閣で水引で小物を作成する体験を開催し、小学生から一般の方15人の皆さんが参加されました。水引と聞くとご祝儀袋の飾りを思い浮かべますが、一度結んでしまうと水引に跡がついてしまうことから未開封の証としていたと由来についてのお話を聞き自分の好みの色の水引を選んで制作に挑戦です。和紙から作られる水引は思ったより張りがあり、参加者の方から「扱いに慣れるまでが大変です。」「結び方が難しい。」「水引の色がたくさんあり、選ぶのに時間がかかりました。」などの声が聞かれました。外の大雨の様子を気にしつつ約2時間ほど制作に取り組み、真剣かつ楽しんでいる表情が印象的でした。講師の加川先生とアシスタントの皆さんの優しいお声がけと笑顔に導かれ、素敵な作品と一期一会の出会いを果たされた皆さん。大変お疲れさまでした！



加川先生に水引の結び方を教えていただく様子

季節の行事

七夕



笹の葉に飾りつけをしたり、短冊に願い事を書いて、星に祈りを託す七夕は日本に古くから伝わる風習です。

吹き流しをはじめ、色鮮やかな七夕飾りには家内安全や無病息災などの願いが込められているそうです。

七夕は織姫と彦星が一年に一度だけ会える日とされていますが、なぜ一年に一度しか会えなくなってしまったのでしょうか？

織姫と彦星は仲の良い夫婦でしたが、遊んでばかりで仕事をしなくなり、織姫の父である天の神様に天の川の兩岸に引き離されてしまったのです。その後、泣いてばかりいる織姫を不憫に思った神様は二人が真面目に仕事をするを条件に一年に一度会うことを許したのだそうです。

※諸説あります。

二人の為に七夕の夜にかささぎが翼を重ねて、天の川に橋をかけるとも言われ、その天上の橋を夜空に見上げ、星の輝きを真っ白な霜に見立てた歌が百人一首に詠まれています。

鵲の
渡せる橋に 置く霜の
白きを見れば 夜ぞ更けに来る 大伴家持

かささぎが 天の川にわたした橋に 降りた霜が
真っ白になったのを見ると 夜もふけてしまったのだな

カレンダー

※■は休館日（変更する場合があります。）○は煎茶提供日です。

7月							8月							9月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
						①			1	2	3	4	⑤							1	②
2	3	4	5	6	7	⑧	6	7	8	9	10	11	⑫	3	4	5	6	7	8	⑨	
9	10	11	12	13	14	⑮	13	14	15	16	17	18	⑰	10	11	12	13	14	15	⑯	
16	17	18	19	20	21	⑳	20	21	22	23	24	25	㉔	17	18	19	20	21	22	㉓	
23	24	25	26	27	28	㉙	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	⑳	
30	31																				

祥雲閣は、テーブルと椅子を設置した立礼茶室で、500円でお茶とお菓子を気軽にお茶を味わうことができ、心和むひとときをお過ごしいただけます。（10時～16時まで）

※団体のお客様は事前のご予約をお願い致します。

茶道をはじめ、箏、仕舞・謡、日本舞踊等の発表会やお稽古にご利用いただけます。貸館をご希望の方は、下記にお問い合わせ下さい。

所在地 大崎市古川福沼一丁目2番2号

電話 0229-24-3385

交通 JR古川駅から徒歩約20分

東北自動車道古川ICより

車で駐車場 有

休館日 月曜日

（月曜が祝日の場合は翌日）

入館料 無料



大崎市祥雲閣

令和5年7月5日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385

